

公 示

国立大学法人和歌山大学
学長選考・監察会議公示第2号

国立大学法人和歌山大学学長選考・監察規程第7条第1項により、下記の方から候補者としての同意を得ましたので、同規程第8条第1項により氏名を公示するとともに、同条第2項により候補者の所信表明、経歴及び業績を併せて掲示します。

記

大 浦 由 美 氏
本 山 貢 氏

以上

令和8年9月9日

国立大学法人和歌山大学学長選考・監察会議
委員長 清 水 博 行

別紙様式 2 (第 7 条第 2 項第 1 号関係)

国立大学法人和歌山大学学長候補者所信表明書

(ふりがな) 氏 名	おおoura ゆみ 大 浦 由 美	生年月日	1968 年 8 月 2 日 (満 58 歳)
最 終 学 歴	信州大学大学院農学研究科 修士課程 修了		
現 (元) 職名	和歌山大学観光学部 学部長／教授		
所 信 表 明	和歌山大学のこれからを、一緒に考えませんか 私は、このたび、学長候補となることを決意しました。 和歌山大学は今、第 5 期中期目標・中期計画の策定を前に、学部入学定員の 20%削減を含む全学的な定員構造の再編が検討されています。2040 年を見据えた未来を考えなければならない今、私は、学生の学びと成長を第一に、研究によって新たな知を生み出し、地域と世界、学問と社会をつなぐ「知の架け橋」となる和歌山大学を皆様とともに膝を突き合わせて考えなければならない時期だと考えています。その上で、学長として進むべき方向を示し、必要な決断を行い、その結果に責任を持ちます。 ■専門性と経験が活かされない大学運営への危機感 私は、全国的に大学のあり方が大きく転換されようとしているなか、現在の大学運営に強い危機感を持っています。和歌山大学が本来持つ専門性や現場の経験を有する人々の知見が活かされないまま方針が決まっていき、検討が不十分な改革が進められています。大学が積み重ねてきた実績や、学外の人々・組織との信頼関係を踏まえないうまま、新たな仕組みがつくられ、本来の強みが失われる状況にみえます。 大学として判断を練り上げる意思決定において、和歌山大学の本来の強み、和歌山に位置することの意義についても十分な対話と検討を尽くすべきです。多様な知恵と経験を意思決定に反映させ、率直に意見を交わせる組織風土と、誰もが安心して働き、学ぶことのできる環境を取り戻す必要があります。 ■地域の未来への選択肢を広げる 和歌山大学は、小さいながらも多様な専門分野を擁する「総合大学」として歩んできました。大学には、社会や地域から直ちにその価値や用途が見えにくい学問も含め、多様な知が息づいていることが必要です。それぞれの学問が専門性を深め、そのうえで分野を越えて交わるところから、新たな問いと知が生まれます。 附属学校もまた、大学の知を教育実践につなぎ、地域の教育力向上に貢献する大切な存在です。大学との信頼と連携を深め、教員養成、教育研究、地域との協働をさらに進める必要があります。 小さな総合大学だからこそ、多様な学びと知を大切にする。大学と附属学校がそれぞれの役割を果たし、ここにあることで、地域の未来への選択肢が広がる。そのような和歌山大学を目指します。学生には、確かな専門性を基礎に異なる分野の知に触れ、多様な人々と協働して未来を構想し、行動する力を育む教育を進めます。		

■構成員とともにつくる第5期中期目標・中期計画

2027年は、第5期中期目標・中期計画を策定する重要な年です。第5期は、その後の和歌山大学の教育研究と大学運営の方向性を定める極めて重要な期間です。

中期目標・中期計画は、その期間を担う学長の責任のもと、執行部と構成員が知恵を持ち寄って策定し、その実現まで一貫して取り組むことが重要です。私は、構成員の皆様とともに第5期の計画を策定し、その実現に責任を持って取り組みます。

第5期の教育研究の柱として、次の三点を進めます。

第一 研究する時間と自由を支える大学へ

自由で独創的な研究を尊重し、短期的な成果や社会的需要だけでは測れない学問の価値も大切にします。研究時間の確保を個人の努力に委ねず、業務の見直しや研究支援体制の強化を含め、大学運営上の課題として取り組みます。

個々の教員の強みを活かし、部局や専門分野を越えた連携を進めます。学内センター等についても、その役割と機能を見直し、研究と連携の拠点として効果的な体制を整えます。

第二 専門性を軸とする分野横断型教育と大学院改革

教育の質向上の観点から、各学部・学環・研究科の専門性を尊重しつつ、学生が自らの専門を軸に、異なる分野の知に触れ、視野を広げる機会を充実させます。本学が培ってきた実践型教育を活かし、地域や社会の現実から問いを立て、実践と学問を往還する教育を進めます。

大学院改革は、これまでの議論を尊重し、既存4研究科の強みを生かした一体的再編の方向性を踏まえて進めます。大きな組織改革であるからこそ、何を実現するための改革なのかを明確にすることが重要です。今後のワーキンググループで示される成果と残された論点を引き継ぎ、大学院の意義と将来像を構成員と共有しながら具体化します。各研究科の専門性を活かし、分野間の連携と学部から大学院への学びの連続性を高めます。

第三 紀伊半島からつなぐ地域と世界

これからの地方国立大学には、自らの発展だけでなく、地域全体の高等教育と人材育成の未来を構想する役割があります。人口減少が進むなかで、地域にどのような学びの機会を確保し、どのような人を育て、どのような知を生み出し、それらを次代へつないでいくのかを地域とともに考えます。

「わかやま地域連携推進プラットフォーム」を基盤に、県内の高等教育機関、自治体、産業界、高等学校とともに、地域に必要な教育・研究と人材育成を進めます。また、紀州研等を中心に蓄積してきた地域の歴史・文化に関する資料と知も活かし、本学ならではの地域研究を次代につなぎます。紀伊半島を、地域の現実から問いを生み出し、本学が培ってきたものづくりや情報・データサイエンス、地域・社会を読み解く知、人の移動や交流を通じて地域と世界をつなぐ知を結び、社会実装へつなげる場と位置づけます。地域や産業界との共創を、新たな産業や事業が生まれ、人材が育ち、集まる循環へと発展させます。さらに、教育研究の国際化も、学生の学びと教育研究の質を高める持続可能な国際連携として進めます。

■教職員の専門性を信頼し、現場の力を活かす大学運営

教員、職員、附属学校教職員がそれぞれ有する専門性と経験を大学運営に活かし、適切な人に責任と権限を委ねます。人事と評価は、専門性と実績に基づいて公正に行います。各部局・組織の専門性と自律性を尊重し、任せるべきことは現場に委ね、その結果の最終責任は執行部が負います。

意思決定にあたっては、異なる意見を率直に出し合い、十分な対話を通じて大学としての判断を練り上げます。

新しい取組は、既存業務の見直し・簡素化と合わせて考えます。必要な人員、時間、予算を確保して実施体制を整え、現場の負担を増やすだけの改革にならないよう、持続可能な運営を進めます。

■地域とともに考える「規模の適正化」

現在、本学では、第5期の終了時である2033年度に向けて学部入学定員を20%削減する方向で検討されています。18歳人口の減少を背景に、国の高等教育政策においても、「量的規模の適正化」が求められています。しかし、この問題を本学の経営上の問題だけに矮小化してはならないと考えます。和歌山という地域にどのような学びの機会と教育研究の基盤を確保するのかという、地域の将来に関わる問題です。

この問題については、国の政策が示す方向を十分に受け止めつつ、本学の使命と和歌山の将来に照らして考えることが重要です。学部入学定員の削減幅を前提とせず、地域の人材需要、高等教育へのアクセス、県内高等教育機関との役割分担、本学の強みと成長可能性を踏まえ、地域とともに考えます。

■対話し、決断し、責任を負う学長に

大学の重要な課題については、多様な意見を踏まえたうえで、必要な判断は学長として引き受けます。判断の理由と過程を明らかにし、最終的な決定とその結果に責任を持ちます。

学長や執行部は、学生と、教育・研究・学生支援を担う教職員を支える立場にあります。学生の学びと成長を判断の原点に据えます。

和歌山大学がここにあることで、地域の未来への選択肢が広がる。その実現に向けて、構成員の皆様とともに歩んでまいります。

(署名)

大浦 由美

別紙様式 3 (第 7 条第 2 項第 2 号関係) (表面)

国立大学法人和歌山大学学長候補者経歴及び業績書

(ふりがな) 氏 名	おおうら ゆ み 大 浦 由 美	
生 年 月 日	1968 年 8 月 2 日 (満 58 歳)	
最 終 学 歴	信州大学大学院農学研究科修士課程 修了 (1993 年 3 月)	
学 位	博士 (農学) (名古屋大学)	
現 (元) 職名	和歌山大学観光学部 学部長／教授	
経 歴 (最終学歴から のもの)	1991. 3 1991. 4 1993. 3 1993. 4 1999. 4 2005. 12 2007. 4 2008. 4 2015. 4 2017. 4 2018. 4 2021. 4 2023. 4 2023. 10	信州大学 農学部林学科 卒業 信州大学 大学院農学研究科修士課程 入学 信州大学 大学院農学研究科修士課程 修了 名古屋大学 農学部 助手 名古屋大学 大学院生命農学研究科 助手 名古屋大学 大学院生命農学研究科 講師 和歌山大学 経済学部 准教授 和歌山大学 観光学部 准教授 和歌山大学 観光学部 教授 (現在に至る) 和歌山大学 観光学部 副学部長 (-2021. 3) 和歌山大学 食農総合研究所 所長 (-2020. 3) 和歌山大学 観光学部 評議員 (-2023. 3) 和歌山大学 観光学部 学部長 (現在に至る) 日本学術会議 連携会員 (第 26 期) (現在に至る)

(裏面)

業 績 (研究業績等)	(論文) 1 都市農村交流を活用した棚田保全活動の実態と課題 ―中間支援組織の機能に着目して― 中西円香, 大浦由美, 藤田武弘 / 農業市場研究 32(4) 1-13 2024年3月 査読有り 2 Transition of Forest Tourism Policies in Japanese National Forest Management Yumi Oura / Tourism Planning & Development 15 40-54 2017年9月 査読有り 3 韓国における「探訪予約・ガイド制度」の展開と地域社会への影響-チリサン国立公園チルソン溪谷周辺地域を事例として- 曹禎敏, 大浦由美 / 和歌山大学観光学会 観光学 14 23~31-31 2016年3月 査読有り 4 Policy Development and Direction of Urban-Rural Interaction after 1990's in Japan 大浦 由美 / Academic world of tourism studies 1 67-76 2012年 筆頭著者 5 国有林野事業の将来展望 (一五〇一〇号記念特集 わが国林業の将来展望) 大浦 由美 / 山林 (1501) 37-42 2009年6月 招待有り 6 国有林野事業における「モデルプロジェクト」に関する一考察 : 宮崎県・綾の照葉樹林プロジェクトを事例として 大浦 由美 / 観光学 1-13 2009年3月 7 1990年代以降における都市農山村交流の政策的展開とその方向性(テーマ: 1990年代以降の林政の展開と今後の方向性, 2008年春季大会論文) 大浦 由美 / 林業経済研究 54(1) 40-49 2008年 査読有り・招待有り 8 第4報告 国有林における森林レクリエーション事業の展開と対境関係の変化 (国有林の展開方向と国民参加の意義 (財)林業経済研究所第4回シンポジウム) 大浦 由美 / 林業経済 57(11) 13-16 2005年 9 国有林野における森林レクリエーション事業と地域社会 大浦 由美 / 名古屋大学森林科学研究 23(23) 19-98 2004年12月 査読有り 10 国有林野における「森林探勝型」レクリエーション事業の展開 : 赤沢自然休養林を事例として 渡邊 宏美, 大浦 由美, 野口 俊邦 / 林業経済研究 49(2) 27-34 2003年 査読有り 11 「流域管理システム」下における国有林請負事業体の展開 : 木曽谷流域を事例として 大浦 由美, 佐藤 晶子, 野口 俊邦 / 林業経済研究 49(2) 11-18 2003年 査読有り
------------------------	--

業 績 (研究業績等)	12 国有林野における森林レクリエーション事業と地域社会：木曽谷地区を事例として 大浦 由美, 野口 俊邦, 佐藤 晶子 / 林業経済研究 48(2) 1-8 2002 年 査読有り 13 戦前期における森林のレクリエーション利用と国有林-明治初期における「官有地公園」と官林との関係を中心に- 大浦 由美 / 林業経済研究 44(1) 39-44 1998 年 査読有り 14 国有林野地元利用の今日的状況：新潟県六日町営林署管内 N 共用林野組合を事例として(1996 年秋季大会自由論題論文) 大浦 由美 / 林業経済研究 43(2) 25-30 1997 年 査読有り 15 国有林野使用料算定方式の変更に關する一考察(自由論題論文, 1994 年秋季大会) 大浦 由美 / 林業経済研究 1995(127) 83-88 1995 年 査読有り 16 御岳国有林における森林レクリエーション事業の展開(1992 年秋季大会) 大浦 由美 / 林業経済研究 1993(123) 130-134 1993 年 査読有り 17 国有林野における森林レクリエーション事業の展開 大浦 由美 / 林業経済 45(11) 19-32 1992 年 査読有り (書籍等出版物) 1 Tourism development in Japan : themes, issues and challenges Sharpely, Richard, 加藤, 久美 (担当:分担執筆, 範囲:Transition of forest tourism policies in Japanese national forest management) Routledge 2020 年 10 月 (ISBN: 9780367221478) 2 大学的和歌山ガイド-こだわりの歩き方 神田孝治, 大浦由美, 加藤久美 (担当:共編者(共編著者), 範囲:「紀州の棚田を守り継ぐ」(pp.141-159), 「都市農村交流の鏡効果-『棚田ふぁむ』の活動から」(共著・pp.160-162)) 昭和堂 2018 年 10 月 (ISBN: 4812217350) 3 ここからはじめる観光学：楽しさから知的的好奇心へ 大橋, 昭一, 山田, 良治, 神田, 孝治 (担当:分担執筆, 範囲:「第 13 章 観光と地域再生」, 「第 18 章 森林とレクリエーション」) ナカニシヤ出版 2016 年 12 月 (ISBN: 9784779511233) 4 現代の観光とブランド 大橋, 昭一 (担当:分担執筆, 範囲:「第 7 章 農村と観光」) 同文館出版 2013 年 (ISBN: 9784495382216) 5 都市と農村：交流から協働へ 橋本, 卓爾, 山田, 良治, 藤田, 武弘, 大西, 敏夫 (担当:分担執筆, 範囲:「第 12 章 『参加・協働』の森づくり」) 日本経済評論社 2011 年 (ISBN: 9784818821552)
------------------------	---

業 績 (研究業績等)	(共同研究・競争的資金等の研究課題) 1 観光地域マネジメント推進体制における森林空間利用の進展と課題 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 2024 年 4 月-2028 年 3 月 / 大浦 由美 (研究代表者) 2 観光教育におけるデジタル没入型技術の活用に関する探索的研究 国際観光学研究センター CTR 共同研究支援プログラム 地域 2025 年 5 月-2026 年 3 月 / 大浦 由美 (研究代表者)，柴本 百合香 3 関係人口と地域住民との価値共創から検証するツーリズム・テロワール価値概念の有効性 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021 年 4 月-2024 年 3 月 / 藤田 武弘，大浦 由美 (分担) 他 4 企業の CSR 活動等を契機とした新たな地域観光の創出：「企業の森」事業に着目して 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2021 年 4 月-2024 年 3 月 / 大浦 由美 (研究代表者) 5 国有林野の「協働型管理」におけるツーリズム活用・創出の意義と課題 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2015 年 4 月-2018 年 3 月 / 大浦 由美 (研究代表者) 6 国有林の森林レクリエーション事業を中心とする多様なパートナーシップの形成 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 基盤研究(C) 2011 年-2013 年 / 大浦 由美 (研究代表者) 7 国有林野の地元利用に関する研究 日本学術振興会 科学研究費助成事業 奨励研究(A) 奨励研究(A) 1996 年-1996 年 / 大浦 由美 (研究代表者) (所属学会) 林業経済学会，日本林学会，棚田学会，日本農業市場学会，観光学術学会 (受賞) 2010 年 5 月 第 9 回 (2010 年度) 林業経済学会奨励賞，林業経済学会
上記のとおり相違ありません。 (署名) 大浦 由美	

別紙様式2（第7条第2項第1号関係）

国立大学法人和歌山大学学長候補者所信表明書

(ふりがな) 氏 名	もとやま みつぎ 本 山 貢	生年月日	1962 年 2 月 13 日生（満 64 歳）
最 終 学 歴	福岡大学大学院体育学研究科 修士課程 修了		
現（元）職名	和歌山大学 学長／教授		
所 信 表 明	和歌山大学の未来を切り拓くために — つながり、挑戦し、地域とともに成長する大学へ — 私は、令和 5 年 4 月に和歌山大学長に就任して以来、1 期目において、本学の教育・研究・地域貢献・大学運営の発展に向け、教職員、学生、卒業生、地域社会・産業界の皆様とともに歩んでまいりました。 この間、大学を取り巻く環境は大きく変化しました。少子化の進行や 18 歳人口の減少、地域社会の担い手不足、デジタル化の急速な進展、さらには国立大学法人をめぐる財政的制約など、地方国立大学に求められる役割は、これまで以上に重く、また複雑なものとなっています。とりわけ、2035 年以降に見込まれる 18 歳人口の急減は、本学にとって避けて通ることのできない重要な課題です。 しかし私は、このような時代だからこそ、和歌山大学が果たすべき使命の重要性は一層高まっていると考えています。本学は、地域の課題に向き合い、その解決に挑戦する教育研究を通じて、学生を育て、研究を深め、地域と世界をつなぐ知の拠点として発展していく必要があります。あわせて、国際交流や国際的な教育研究連携を推進し、多様な価値観を学びに取り入れることで、地域に根ざしながら世界に開かれた大学としての役割を果たしていきます。 1 期目においては、「Z 世代に選ばれる大学づくり」「地域社会と共存共栄したバリューチェーンの創造」「長期的視点や規律に基づいた運営システムの強靱化」「謙虚なリーダーシップとフォロワーシップ」を基本に、教育改革、地域連携、組織運営の見直し、産官学金の連携基盤づくりなどに取り組んでまいりました。さらに、外部資金の獲得においては、学長として先頭に立ち、学内外の皆様の協力を得ながら、大型寄附金や共同研究費等の確保に努めるなど、本学の教育研究活動を支える財務基盤の強化に努めてまいりました。 2 期目においては、これまで築いてきた基盤をさらに発展させ、構想を具体的な成果へと結びつける段階に進めてまいります。 1 学生に選ばれ、学生を伸ばす教育改革 大学の最も重要な使命は、教育を通じて未来を担う人材を育てることです。和歌山大学で学ぶ学生一人ひとりが成長を実感し、卒業後に本学で学んだことを誇りに思える大学でなければなりません。そのために、教育学部、経済学部、システム工学部、観光学部、社会インフォマティクス学環の強みを活かし、専門性を深める教育と、分野を越えて地域課題に挑戦する実践的な学びを充実させ、自ら未来を切り拓く人材を育成し、社会に送り出していきます。 特に、数理・データサイエンス・AI、DX の推進、地域産業の高度化、観光 DX、学校教育の変革、地域経営、医療・福祉・Well-being など、和歌山の将来に直結する分野において、学生が地域で学び、課題を発見し、他者		

と協働して解決に向けて行動できる力を育成します。あわせて、多様な背景を持つ学生が安心して学べる包摂的な環境を整えます。

また、18歳人口の減少を見据え、県内外の高校との連携を強化し、高大接続、探究学習との連動、地域とのつながりを重視した入学者選抜などを通じて、和歌山大学が「地域で学び、地域から世界に挑戦できる大学」として選ばれるよう取り組みます。さらに、社会人の学び直しやリカレント教育、留学生の受入れを推進し、多様な世代と背景を持つ学生が学び合う教育環境を整えることで、18歳人口減少時代に対応した新たな学びの基盤を構築します。

2 地域とともに価値を創造し、ともに成長する連携の推進

1 期目に掲げた「地域社会と共存共栄したバリューチェーンの創造」をさらに具体化し、2 期目においては、「地域連携推進プラットフォーム」を中核とした産官学金連携の実質化を進めます。人口減少、若者流出、地域産業の担い手不足、観光の持続可能性、学校教育の課題、高齢化、防災、地域交通、デジタル化など、和歌山県が抱える課題は多岐にわたります。これらの課題は、同時に和歌山大学が教育研究の力を発揮すべき領域でもあります。

これからの地域貢献は、大学から地域への一方向の関係だけにとどまっては不十分です。大学、自治体、産業界、金融機関、教育機関、地域住民が知恵と力を持ち寄り、課題を共有し、解決に向けて共に行動する連携の仕組みが必要です。

今後は、地域課題を教育研究の現場に取り込み、学生が地域で学び、教員が地域とともに研究し、その成果を社会に還元する循環を強化します。紀伊半島価値共創基幹をはじめとする本学の地域連携組織の機能を高め、県内外の高等教育機関、自治体、企業、金融機関との連携をさらに深め、それぞれの強みを融合させます。さらに、和歌山圏域における高等教育の将来像を構想し、地域の人材育成、若者定着、地域産業の活性化に資する連携を実現することで、地域とともに本学自身も成長し、地方国立大学としての存在意義をより明確に示していきます。

3 特色ある教育研究と社会実装の強化

地域から信頼され、学生から選ばれ、社会から評価されるためには、教育と研究の質を向上させることが不可欠です。和歌山大学には、教育、経済、システム工学、観光、社会インフォマティクスなどの分野で多様な知が蓄積されています。この知を部局の枠に閉じるのではなく、学部・学環・研究組織を越えて結びつけることで、本学ならではの特色ある教育研究を展開します。

特に、数理・データサイエンス・AI、観光、地域経営、学校教育、Well-being、健康、環境、防災、地域産業の高度化など、本学の強みと地域社会の課題が重なる領域に重点を置き、研究成果の可視化と社会実装を進めます。あわせて、国際交流や国際共同研究、海外大学との連携を推進し、本学の教育研究を地域から世界へと展開していきます。さらに、若手研究者をはじめとする教員が、教育・研究・地域貢献に意欲を持って取り組めるよう、研究時間の確保、外部資金獲得支援、学内共同研究の促進、研究成果の発信強化に取り組み、本学全体の教育研究力を高めていきます。

4 持続可能で信頼される大学運営

大学の使命を実現するためには、教育研究の理想を掲げるだけでなく、それを支える運営基盤を強化する必要があります。国立大学法人を取り巻く財政状況は厳しく、運営費交付金の縮減、物価上昇、人件費負担、施設

設備の老朽化、競争的資金への依存など、本学の経営環境は極めて厳しい状況にあります。

限られた資源をどの分野に重点的に配分するのかを明確にし、透明性と納得性のある大学運営を進めます。そのために、DXの推進、事務機能の見直し、会議や手続きの効率化、情報共有の改善により、教職員がそれぞれの専門性を十分に発揮できる環境を整えます。あわせて、学生の主体的な学びを支え、教職員の意欲と能力を高める運営体制を整備することで、大学全体の活力を高めていきます。

また、財務、人事、施設、教育研究組織の在り方を長期的視点から検討し、10年後、20年後の和歌山大学を見据え、安定性と改革を両立させた持続可能な運営を行います。学生にとって学びやすく、教員にとって教育研究に取り組みやすく、職員にとって誇りを持って働ける大学であることが、本学の発展の基盤であると考えています。

5 謙虚なリーダーシップと対話・協働による大学づくり

学長には、大学の方向性を示し、必要な決断を行う責任があります。しかし、大学は学長一人で動く組織ではありません。教員、職員、学生、卒業生、地域の皆様をはじめ、多くの知と経験を結びつけ、共通の目標に向かって進むことこそ、大学運営におけるリーダーシップであると考えています。

大学の現状や課題を客観的かつ的確に把握し、本学の強みと特色、社会的ミッションを最大限に発揮するためには、明確なビジョンと戦略、そして対話と協働に基づく実行力が必要です。

私は、必要な決断を行うとともに、異なる意見に耳を傾ける姿勢を大切にします。率直な意見や健全な批判を受け止め、対話を重ね、合意形成を図りながら、大学として進むべき道を切り拓いていきます。2期目は、1期目に築いた基盤を成果へと結びつける重要な時期です。教育改革、地域連携、研究力強化、大学運営の改善はいずれも一朝一夕に実現できるものではありません。だからこそ、継続性と実行力が必要です。

和歌山大学は、和歌山の地に根ざし、地域とともに発展してきた大学です。同時に、地域の課題を世界につながる学びと研究へと高めることのできる大学でもあります。これからの本学に求められるのは、人口減少の時代に受け身で対応する大学ではなく、地域の未来を構想し、学生とともに挑戦し、社会に新たな価値を生み出す大学です。

私は、2期目において、学生に選ばれ、学生を伸ばす大学、地域とともに価値を創造する大学、教育研究の質を高める大学、持続可能で信頼される大学、そして構成員が誇りを持って働き、学ぶことのできる大学を目指し、全力を尽くしてまいります。

本学の未来を切り拓くために、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

(署名)

本山貢

国立大学法人和歌山大学学長候補者経歴及び業績書

(ふりがな) 氏 名	もとやま みつぎ 本 山 貢	
生 年 月 日	1962 年 2 月 13 日 （満 64 歳）	
最 終 学 歴	福岡大学大学院体育学研究科修士課程 修了 (1992 年 3 月 修了)	
学 位	博士（体育学）（中京大学）	
現（元）職名	和歌山大学 学長／教授	
経 歴 (最終学歴から のもの)	1984. 3 1984. 4 1988. 1 1988. 2 1990. 4 1992. 3 1993. 3 1993. 4 1995. 4 1996. 4 1997. 4 2004. 4 2015. 4 2017. 4 2019. 4 2023. 4	福岡大学体育学部 卒業 医療法人愛風会さく病院入職 医療法人愛風会さく病院退職 入江内科循環器科医院入職 福岡大学大学院体育学研究科修士課程 入学 福岡大学大学院体育学研究科修士課程 修了 入江内科循環器科医院退職 福岡大学体育学部助手（1995. 3. 31 まで） 福岡大学医学部第2内科研究生（1996. 3. 31 まで） 和歌山大学教育学部講師 和歌山大学教育学部助教授 和歌山大学教育学部教授（2023. 3 まで） 和歌山大学評議員（2017. 3. 31 まで） 和歌山大学教育学部副学部長（2019. 3. 31 まで） 和歌山大学教育学部長（2023. 3 まで） 和歌山大学学長（現在に至る）

業 績 (研究業績等)	「著書」 (25 件) 1) 本山司, 本山貢: 循環器系疾患(高血圧症)の予防改善とアクアフィットネス, 日本スイミング協会, メディカルアクアフィットネスインストラクター教本, 全 324(分担), 124-141, 2021. 2) 編著; 征矢英昭, 本山貢, 石井好二郎: もっとなっとく使えるスポーツサイエンス, 講談社サイエンティフィク(東京), 全 192, 2017. 3) 本山貢: ゆっくり動けば体が若返るワダイビクス CD ブック, マキノ出版, 全 146, 2016. 4) 本山貢, 木場田昌宜: 地域イノベーション戦略支援プログラム事業「シニアエクササイズ運動プログラム」運動マニュアル(改訂版), 和歌山大学介護予防地域支援プロジェクト, 全 85, 2014. 5) 本山貢, 木場田昌宜: 地域イノベーション戦略支援プログラム事業「シニアエクササイズ運動プログラム」運動マニュアル, 和歌山大学介護予防地域支援プロジェクト, 全 83, 2013. 6) 本山貢: 介護予防・防災に役立つ筋トレ&脳トレが同時にできるゆっくりゆっくりシニアエクササイズ, 米国公益法人健康科学研究協会, 全 63, 2012. 7) 編集; 進藤宗洋, 田中宏暁, 田中守, 共著; 田中宏暁, 本山貢: 健康づくりトレーニングハンドブック「加齢とトレーナビリティ」, 朝倉書店, 全 480(分担), 71-86, 2010. 8) 編集; 進藤宗洋, 田中宏暁, 田中守, 共著; 本山貢, 角南良幸, 田中宏暁: 健康づくりトレーニングハンドブック「高齢期の健康づくり」, 朝倉書店, 全 480(分担), 262-284, 2010. 9) 編集; 進藤宗洋, 田中宏暁, 田中守, 共著; 佐々木淳, 本山貢, 高原和子, 角南良幸: 健康づくりトレーニングハンドブック「脂質異常症と健康づくり」, 朝倉書店, 全 480(分担), 386-397, 2010. 10) 本山貢: 筋トレ&脳トレが同時にできるシニアエクササイズ, 米国公益法人健康科学研究協会, 全 59, 2009. 11) 本山貢: わかやまシニアエクササイズ要支援者用運動プログラム実践マニュアル, 和歌山県, 編集: 和歌山大学介護予防地域支援プロジェクト, 全 89, 2009. 12) 編著; 征矢英昭, 本山貢, 石井好二郎: 新版これになっとく使えるスポーツサイエンス, 講談社サイエンティフィク(東京), 全 182, 2007. 13) 監修・編著; 本山貢: 本山方式 シニアエクササイズトレーニングガイドブック～介護予防対応モデル～, アロン化成, 全 19, 2006. 14) 監修・編著; 本山貢: 安寿 エクササイズステップ, アロン化成, 全 19, 2006. 15) 編著; 本山貢, 山田知令: わかやまシニアエクササイズ実践マニュアル改訂版, 和歌山県, 全 146, 2006. 16) 監修・指導著; 本山貢: トレーニングガイドブック改訂版 わかやまシニアエクササイズ, 和歌山県, 全 31, 2006. 17) 編著; 本山貢: わかやまシニアエクササイズ実践マニュアル, 和歌山県, 全 127, 2005. 18) 監修・指導著; 本山貢: わかやまシニアエクササイズトレーニングガイドブック, 和歌山県, 全 19, 2005. 19) 編者; 北川薫, 共著; 本山貢 他 8 名: 健康運動プログラムの基礎～陸上運動と水中運動からの科学的アプローチ～, 市村出版(東京), 全 123(分担), 56-74, 2005. 20) 編著; 征矢英昭, 本山貢, 石井好二郎: これになっとく使えるスポーツサイエンス, 講談社サイエンティフィク(東京), 全 173, 2002. 21) 編著; 竹島伸生, 共著; 本山貢 他 9 名: 高齢者のヘルスプロモーション, メディカルレビュー社(東京)全 240(分担), 15-27, 170-188, 2002.
------------------------	--

業 績 (研究業績等)	22) 編集; 佐藤祐造, 共著; 本山貢, 他 16 名: 高齢者運動処方ガイドライン, 南江堂(東京), 全 113(分担), 59-74, 2002. 23) 編著; 山田信博, 大内尉義, 共著; 本山貢, 佐々木淳: 循環器疾患と生活習慣病 Metabolic Cardiology と糖尿病診療, 中外医学社(東京), 全 240(分担), 220-236, 2000. 24) 編集: 臨床スポーツ医学編集委員会, 共著; 本山貢, 他 3 名: スポーツ外傷・障害の理学療法, 文光社(東京), 全 460(分担), 440-445, 1997. 25) 編著; 進藤宗洋, 共著者; 進藤宗洋, 本山貢, 他 51 名: レッツ・健やかライフ, 西日本新聞社(福岡), 全 222(分担), 17-19, 1995. 「学術論文」 (96 件) 1) Tsukasa Motoyama, Mitsugi Motoyama: Trainability of Physical Function and Threshold Age for Decline in Frail Older Women: A 6-Year Community-Based Multicomponent Exercise Program, Journal of Gerontology and Geriatrics, 74,7,2026. https://doi.org/10.3390/jgg74010007. 2) Tsukasa Motoyama, Mitsugi Motoyama: Community-based exercise programme for frail older women: 2-year longitudinal outcomes in those aged 65 to 79 and ≥80 years, Asian Journal of Gerontology & Geriatrics 21(1), 2026. 3) 瀬戸山淳, 本山司, 笠修彰, 宮崎聡, 本山貢: 臨床的知見に基づいた精神保健福祉士の援助技法の検討ー精神障害リハビリテーションにおける援助構造を通じての考察ー, 和歌山大学教育学部紀要, 72, 33-40, 2022. 4) 本山朱音, 秋光恵子, 本山司, 本山貢: 特別な支援を必要とする児童生徒への保健教育の現状と課題, 和歌山大学教育学部紀要, 72, 25-32, 2022. 5) 本山朱音, 秋光恵子, 本山司, 本山貢: 小学校の特別支援学級における「手洗い」の授業実践の成果と課題, 養護実践学研究, 4(2), 3-14, 2022. 6) 本山司, 岡田良平, 長根わかば, 本山貢: 学校・家庭・地域が協働して取り組む体力向上, 体育科教育, 70(1), 47-51, 2022. 7) 相磯知里, 後藤弥生, 小坂英樹, 本山司, 本山貢, 鈴木利雄: Lactococcus lactis subsp. cremoris FC で発酵したヨーグルトが女性高齢者の体力に与える影響, 介護予防・健康づくり研究, (9), 18-29, 2021. 8) 村瀬浩二, 清水将, 本山貢, 寺川剛央, 豊田充崇: 教育実践による地域活性化事業の取り組みー感想文の分析からー, 岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, (19), 41-48, 2020. 9) 本山司, 本山光, 岡田良平, 長根わかば, 矢野勝, 本山貢: 運動学習が小学生低学年の跳能力と動作に及ぼす効果について, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 70(1), 63-69, 2020. 10) 本山光, 本山司, 岡田良平, 長根わかば, 矢野勝, 本山貢: 小学生低学年における長期間の運動学習が投能力および動作に及ぼす影響について, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 70(1), 51-61, 2020. 11) 後藤弥生, 小坂英樹, 相磯知里, 吉田克久, 本山司, 本山貢, 鈴木利雄: Lactococcus lactis subsp. cremoris FC で発酵したヨーグルトが高校陸上長距離選手の唾液中分泌型免疫グロブリン A の分泌に与える影響, 体力科学, 68(6), 407-414, 2019. 12) 山登一輝, 本山貢: 介護予防活動の推進に向けた運動プログラムの普及と高齢者の社会参加ーわかやまシニアエクササイズ自主グループ「T.M.てん」の活動ー, 生きがい研究, 長寿社会開発センター, 第 25 集, 82-92, 2019. 13) 家倉智貴, 山口奎, 本山司, 河村愛美, 岡田良平, 長根わかば, 本山光, 本山貢: PDCA サイクルによる小学生の生活習慣改善プログラムの効果に関する研究, 和歌山大学教育学部紀要, 69(1), 147-154, 2019.
------------------------	---

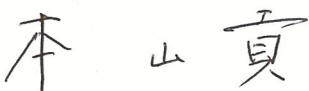
業 績 (研究業績等)	14) 山口奎, 家倉智貴, 本山光, 本山司, 岡田良平, 長根わかば, 河村愛美, 本山貢: 小学生を対象とした基礎運動能力向上プログラムの実践と効果に関する研究, 和歌山大学教育学部紀要, 69(1), 155-162, 2019. 15) 寺井弾, 本山司, 岡田良平, 長根わかば, 河村愛美, 本山貢: 地域・家庭・学校が協働して取り組む体力向上による学校づくりに関する研究, 和歌山大学教育学部紀要, 69(1), 163-167, 2019. 16) 狭間俊吾, 久我アレキサンデル, 玉腰和典, 本山司, 本山貢: 技能下位児童への水泳指導に関する研究 ―「浮くこと」を基礎技術とした小学校3年生の水泳実践から―, 和歌山大学教育学部紀要, 68(1), 159-168, 2018. 17) 北浦米造, 本山貢, 本山司, 保田智子: 体力づくりと学力向上を目指した学校経営と長期的な効果検証, 68(1), 153-158, 2018. 18) 河村愛美, 岡田良平, 長根わかば, 西泰亨, 本山司, 保田智子, 本山貢: 学校全体で取り組む養護教諭を中心とした学校安全対策の実践, 和歌山大学教育学部紀要, 68(1), 147-152, 2018. 19) 長根わかば, 岡田良平, 河村愛美, 西泰亨, 本山司, 保田智子, 狭間俊吾, 本山貢: 小学生の安全管理を重視した水泳指導の実践的研究, 和歌山大学教育学部紀要, 68(1), 139-145, 2018. 20) 岡田良平, 保田智子, 河村愛美, 長根わかば, 西泰亨, 本山司, 本山貢: 小大連携による体力づくりを基礎とした豊かな心と健やかな体を育成するためのカリキュラムマネジメントの確立を目指して, 和歌山大学教育学部紀要, 68(1), 133-138, 2018. 21) 本山光, 矢野勝, 本山貢, 本山司: 情報通信機器を活用した映像視聴がやり投げ競技のパフォーマンスに及ぼす影響について, 和歌山大学教育学部紀要, 68(1), 103-108, 2018. 22) 本山貢, 松田忠之, 本山司: 社会保障費の適正化に向けた6年間の地域創生活活性化支援事業に関する研究 ～大分県由布市をフィールドとして～, 和歌山大学教育学部紀要, 68(1), 87-95, 2018. 23) 本山貢, 松田忠之, 本山司: 介護予防を目的とした健康・地域づくり支援の効果～和歌山県上富田町をフィールドとした9年間の追跡～, 和歌山大学教育学部紀要, 68(1), 117-123, 2018. 24) 本山司, 本山貢, 寺井弾, 矢野勝: 競泳4泳法の連続泳による心拍数と運動強度のモニタリング調査研究, 和歌山大学教育学部紀要, 68(1), 109-115, 2018. 25) 坂上裕昭, 本山司, 川合慧卓, 西川太津, 山本喜一郎, 本山貢: 高校生スイマーの100m競泳競技種目における泳ぎ方とペース配分に関する研究, 和歌山大学教育学部紀要, 68(1), 97-102, 2018. 26) 本山貢, 松田忠之, 本山司: 運動による社会参加で地域を活性化し健康寿命を伸ばす, 21世紀WAKAYAMA, 和歌山社会経済研究所発行, 85, 4-9, 2017. 27) 角南良幸, 高原和子, 本山貢: 小学校教員養成課程の体育科における模擬授業の効果～テキストマイニングによる自由記述形式の回答文に対する検討～, 福岡女学院大学紀要, 第3号, 69-75, 2017. 28) 宮本雅志, 本山貢, 本山司, 池田拓人: 競泳のリレー引き継ぎにおけるスタート方法に関する研究, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 67, 77-81, 2017. 29) 保田智子, 本山貢, 本山司, 池田拓人: 基本的生活習慣の確立を目指した授業実践―小学校・中学校のカリキュラムの構築―, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 67, 203-210, 2017. 30) 前田敏康, 本山貢, 本山司, 池田拓人: 高齢者における食事のタイミングを考えた運動プログラムが筋肉量・運動機能に及ぼす影響について, 和歌山大学教育学部紀要, 人文科学, 67, 35-40, 2017. 31) 池田拓人, 本山貢, 松田忠之: 医学部新入学生の体力に関する研究―体力の現状と現役・非現役入学生での比較―, 和歌山大学教育学部紀要(人文科学), 67, 135-141, 2017.
------------------------	---

業 績 (研究業績等)	32) 本山司, 矢野勝, 谷口和也, 本山貢: 男子円盤投のブロック足に着目した動作分析および筋電図学的研究, 和歌山大学教育学部紀要, 人文科学, 67, 47-53, 2017. 33) 瀬戸山淳, 猪狩圭介, 本山貢, 今村浩司, 笠修彰, 宮崎聡, 西川佳央里: 離島地域におけるうつ病高齢者の社会的背景 ～外来診療録を使った後方視調査から～, 和歌山大学教育学部紀要, 人文科学, 67, 41-45, 2017. 34) 松本裕樹, 本山貢, 谷口和也, 本山司, 池田拓人: 8年間に及ぶ体力向上トレーニングが高齢者の体力維持と要介護認定に及ぼす影響について, 和歌山大学教育学部紀要, 人文科学, 66, 69-76, 2016. 35) 谷口和也, 本山貢, 松本裕樹, 本山司, 池田拓人: 体力向上トレーニングの継続が後期高齢女性の体力及び介護度に及ぼす影響について, 和歌山大学教育学部紀要, 人文科学, 66, 53-57, 2016. 36) 本山貢, 松田忠之, 谷口和也, 松本裕樹, 本山司: 介護福祉・健康づくりの実践事例「運動による介護予防の広域対策～和歌山県モデル～」, 介護福祉・健康づくり, 日本介護福祉・健康づくり学会編, 2(2), 94-99, 2015. 37) 池田拓人, 本山貢, 永井邦彦: 和歌山大学教職・キャリア支援室の取り組みと教員採用状況の推移, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 25, 121-127, 2015. 38) 谷口和也, 本山貢, 松本裕樹, 本山司, 矢野勝, 池田拓人: 高齢者に対する運動と食事に関する教育実践的指導の効果について, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 25, 43-47, 2015. 39) 谷口和也, 本山貢, 矢野勝, 本山司: キネシオテーピングが高齢者のトレーニング効果に及ぼす影響について, 和歌山大学教育学部紀要(人文科学), 65, 93-98, 2015. 40) 木場田昌宜, 本山貢, 松本裕樹: 高齢者の健康教育における運動と食事のコンビネーションの重要性と指導方法について, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 23, 201-206, 2013. 41) 松本裕樹, 本山貢, 木場田昌宜: 高齢者の健康教育における音楽療法的活動とその有効性, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 23, 217-213, 2013. 42) 瀬戸山淳, 本山貢 他 3 名: 精神保健福祉士からみた現代精神医療史—ライシャワー事件前後の同行を中心に—, 和歌山大学教育学部紀要, 人文科学, 63, 67-72, 2013. 43) 木場田昌宜, 松本裕樹, 本山貢: 高齢者向けエクササイズにおける音楽演奏形態の違いによる認知症予防効果の比較—生演奏とCD再生演奏を比較して—, 和歌山大学教育学部紀要, 人文科学, 63, 101-106, 2013. 44) 松本裕樹, 木場田昌宜, 本山貢: 高齢者における体力向上トレーニングプログラムが認知機能に及ぼす効果について, 和歌山大学教育学部紀要, 人文科学, 63, 101-105, 2013. 45) 橋本晃和, 本山貢: 体力テストの結果に基づいた初等体育科授業におけるボール運動「ゴール型」フライングフットボールの実践について, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 22, 41-48, 2012. 46) 松本裕樹, 本山貢, 井上明子, 木場田昌宜: 介護予防運動における電子キーボードの活用～リズムテンポが正確すぎるという批判へのアンチテーゼ～, 日本電子キーボード音楽学会(電子キーボード音楽研究), 6, 69-77, 2011. 47) 松本裕樹, 木場田昌宜, 松田忠之, 米山龍介, 本山貢: 電子キーボードによる生演奏の音楽導入に関するシニアトレーニング実践研究—導入有無での気分の変化について—, 和歌山大学教育学部紀要, 人文科学, 61, 135-142, 2011. 48) 本山貢: 和歌山県全域で取り組む介護予防のための「わかやまシニアエクササイズ」, 21 世紀 WAKAYAMA 社会経済研究所, 64, 9-14, 2011. 49) 宮下和, 本山貢, 木場田昌宜: 小学生の生活習慣が体力に及ぼす影響について, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 20, 125-131, 2010.
------------------------	--

業 績
(研究業績等)

- 50) 池田敬子, 羽野卓三, 本山貢, 牟礼佳苗, 竹下達也: 高齢者におけるメンタルストレスへの反応性と運動習慣との関係, 日本循環器病予防学会誌, Vol. 44, No.3, 141-151, 2009.
- 51) 坂上裕昭, 本山貢: 高校生トップスイマーにおける合宿前後の OBLA-SPEED, 心拍数およびストローク数の変化について, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 58, 93-101, 2008.
- 52) 芝大輔, 藤本貴大, 坂上裕昭, 吉田克久, 本山貢: 高校長距離選手におけるトレーニング量の減少が走パフォーマンスに及ぼす影響について, 和歌山大学教育学部紀要(教育科学), 58, 103-108, 2008.
- 53) 藤本貴大, 本山貢: 介護予防における体力向上を目的とした運動プログラムの有効性, 和歌山大学教育学部紀要(教育科学), 57, 57-63, 2007.
- 54) 大曾彰子, 藤本貴大, 本山貢: 介護予防における水中運動を中心としたトレーニング効果について, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 16, 127-134, 2006.
- 55) A. Shiotani, M. Motoyama, T. Matsuda, T. Miyanishi : Brachial-ankle pulse wave velocity in Japanese University students, Internal Medicine, 44(7), 696-701, 2005.
- 56) 佐伯要子, 本山貢, 他9名: 大学生のライフスタイルと健康の実態に関する総合的研究ー全人的健康度とライフスタイルの関係ー, 大阪体育学研究, 第42巻, 59-68, 2004.
- 57) 本山貢, 松崎裕子, 段木晃 他5名: 美里町における温泉と運動による健康づくりに関する研究, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 第54集, 110-127, 2004.
- 58) 本山貢, 植原宏仁, 森岡英二, 地井誠一郎, 田邊智: 完全学校週5日制に伴う地域密着型スポーツ教室について, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 13, 87-93, 2003.
- 59) 矢野勝, 加藤弘, 本山貢, 植田真帆: 本学部入学生の体格・体力の現状, 和歌山大学教育学部教育実践総合センター紀要, 13, 79-85, 2003.
- 60) 本山貢: 大学新入学生の身体活動水準と感情プロフィールとの関連性について, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 53, 119-130, 2003.
- 61) 原通範, 加藤弘, 矢野勝, 本山貢: スキーの初心者指導におけるパラレルターン指導法・教程についての一考察, 日本スキー学会誌, Vol.11, No.1, 107-129, 2001.
- 62) 輪田順一, 本山貢: 介護保健導入後どう変わったか, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 第51集, 67-82, 2001.
- 63) 深田和弘, 本山貢: 多目的流水装置を用いた水中ウォーキングのトレーニング効果について, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 51, 55-66, 2001.
- 64) 木下藤寿, 沢崎健太, 伊藤克之, 本田達朗, 茂原治, 本山貢, 向野義人: 企業における鍼治療が運動器疾患と医療費に及ぼす影響, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 第50集, 103-110, 2000.
- 65) 瀬戸山淳, 園本建, 本山貢, 見元裕二: 「いわゆるひきこもり」への精神科治療〜27歳男性例の治療経過からの考察〜, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 50, 97-102, 2000.
- 66) 角南良幸, 木下藤寿, 本山貢: 3カ月間のウォーキングが中年女性の更年期障害および Quality of Life に及ぼす影響, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 50, 111-122, 2000.
- 67) 角南良幸, 木下藤寿, 本山貢: 運動所要量を充足した3カ月間のウォーキングプログラムが中年女性の Quality of life に及ぼす影響, 久留米大学保健体育センター研究紀要, 7, 9-16, 1999.
- 68) Y. Sunami, M. Motoyama, F. Kinoshita, Y. Mizooka, K. Sueta, A. Matsunaga, J. Sasaki, H. Tanaka, M. Shindo: Effects of low-intensity aerobic training on the high-density lipoprotein cholesterol concentration in healthy elderly subjects, Metabolism-Clinical and Experimental, 48 (8), 984-988, 1999.
- 69) 本山貢, 佐々木淳: 血栓性動静脈疾患の臨床研究の進歩-治療学-(運動療法), 日本臨床, 第57巻7号, 135-141, 1999.

業 績 (研究業績等)	70) 本山貢: 高齢社会が抱える課題と高齢者の運動による健康づくりの必要性, 和歌山大学教育学部紀要, 教育科学, 第 48 集, 197-202, 1999. 71) 木下藤寿, 伊藤克之, 本山貢, 茂原治: 企業における身体活動とストレスとの関係, 和歌山大学教育学部紀要, 自然科学, 49, 57-62, 1999. 72) 本山貢: 高齢者の運動による健康づくり支援システムの確立をめざして, 和歌山大学教育学部紀要, 人文科学, 49 集, 161-166, 1999. 73) 本山貢, 西田裕一郎, 田中宏暁, 進藤宗洋: 高齢者の有酸素性運動の意義と指導内容およびその注意点, 臨床スポーツ医学, 16(9), 1003-1013, 1999. 74) 筑地公成, 本山貢, 角南良幸 他 3 名: 低強度の有酸素性運動が中年企業労働者の生理的指標と Quality of life に及ぼす影響, 産業衛生学雑誌, 41, 63-71, 1999. 75) 本山貢, 田中宏暁, 進藤宗洋, 佐々木淳: 有酸素性トレーニングと血清脂質: 教育医学, 44(4), 577-591, 1999. 76) 本山貢: 低強度の有酸素性トレーニングが高齢高血圧症患者の血圧および血清脂質に及ぼす影響, 学位論文(中京大学), 1998. 77) M. Motoyama, Y. Sunami, F. Kinoshita, A. Kiyonaga, H. Tanaka, M. Shindo, T. Irie, H. Urata, J. Sasaki, K. Arakawa: Blood pressure lowering effect of low intensity aerobic training in elderly hypertensive patients, Medicine and Science in Sports and Exercise, 30(6), 818-823, 1998. 78) 山縣一之, 矢野勝, 加藤弘, 本山貢, 池田拓人: 半年間の体育実技が体格・体力に与える影響, 和歌山大学教育学部紀要, 自然科学, 48, 97-106, 1998. 79) 本山貢, 田中宏暁, 進藤宗洋, 荒川規矩男: 高齢高血圧症患者の運動療法, 体力科学, 47(5), 473-488, 1998. 80) 本山貢, 加藤弘, 矢野勝, 松岡勇二: 肥満学生における6か月間の運動習慣の違いが身体組成に及ぼす影響について, 和歌山大学教育学部教育実践研究指導センター紀要, 7, 97-104, 1997. 81) 加藤弘, 本山貢, 矢野勝, 松岡勇二: 大学生の身体組成と生活習慣, 和歌山大学教育学部教育実践研究指導センター紀要, 第 7 巻, 89-96, 1997. 82) 本山貢: 高齢者の身体活動量の違いが最大酸素摂取量および血圧に及ぼす影響について, 和歌山大学教育学部紀要, 自然科学, 第 47 集, 57-66, 1997. 83) 本山貢, 田中宏暁, 進藤宗洋: 中高年者にみられる運動実践効果 -運動実践の呼吸循環機能と血圧, 血中脂質に及ぼす効果-, Japanese Journal of Sports Science, 第 14 巻 1 号, 55-60, 1995. 84) M. Motoyama, Y. Sunami, F. Kinoshita 他 6 名: The effects long-term low intensity aerobic training and detraining on serum lipid and lipoprotein concentrations in elderly men and women, European Journal Applied Physiology, Vol.70, 126-131, 1995. 85) 本山貢, 角南良幸, 木下藤寿 他 5 名: 長期間に及ぶ軽強度の有酸素的トレーニングと運動中止が有病高齢者の血清脂質及び脂質蛋白質に及ぼす影響について, 体力科学, 第 43 巻 5 号, 434-442, 1994. 86) 本山貢, 角南良幸, 木下藤寿 他 4 名: Lactate Threshold を指標とした長期トレーニングとその中止が薬物療法下の高齢な高血圧症患者の血圧に及ぼす影響について, 体力科学, 第 43 巻 4 号, 300-308, 1994. 87) 進藤宗洋, 本山貢: 健康スポーツの社会学 -地域健康管理システムの確立をめざして-, Journal of Integrated Medicine, 第 4 巻 5 号, 402-404, 1994. 88) S. Miura, M. Ideishi, T. Sakai, M. Motoyama 他 5 名: Angiotensin II formation by an alternative pathway during exercise in humans, Journal of Hypertension, 12(10), 1177-1181, 1994. 89) 瀬戸山淳, 本山貢, 中尾研二 他 6 名: 日常的に運動を継続させるための社会的因子の研究〜エアロビクダンス・インストラクターを長期間継続している中年女性を通しての考察〜, ふくおか医療社会事業のあゆみ, 第 20 号, 69-79, 1993.
------------------------	--

業 績 (研究業績等)	90) 本山貢, 清永明, 田中宏暁, 進藤宗洋: 高血圧の運動療法, 臨床スポーツ医学, 10, 438-443, 1993. 91) 本山貢, 入江尚, 入江公 他 5 名: 9 ヶ月間に及ぶ軽強度の有酸素的運動が 65 才以上の高血圧症を有する高齢男女の血中脂質及びリポ蛋白に及ぼす影響について, 体力科学, 第 41 巻 5 号, 559-566, 1992. 92) 本山貢, 角南良幸, 入江尚 他 9 名: Aerobic Dance Instructor の血清脂質およびアポリポ蛋白濃度と有酸素的作業能との関連性と経時的変化, 臨床スポーツ医学, 第 9 巻 4 号, 442-447, 1992. 93) 本山貢, 入江尚, 輪田順一 他 6 名: 運動負荷心電図の非特異的な ST-T 変化と推定最大酸素摂取量との関連について - 健康女性についての検討 -, 動脈硬化, 第 20 巻 1 号, 31-35, 1992. 94) 本山貢, 入江尚, 輪田順一 他 5 名: 推定最大酸素摂取量と心電図異常との関連 - 女性についての検討 -, 動脈硬化, 第 19 巻 6,7 号, 683-689, 1991. 95) 日高和子, 結城美香, 半田耕一, 松永彰, 本山貢 他 5 名: エアロビクス・インストラクターの血清脂質およびアポリポ蛋白濃度, 臨床スポーツ医学, 第 8 巻 3 号, 318-321, 1991. 96) 朔元洋, 朔寛, 有富洋子, 本山貢, 松田桂子: 半日ドッグ健診における体力指標測定および運動指導の有効性について, Health Science, 第 6 巻 1 号, 36-41, 1990. 「その他の著書・論文, 報告書, 資料等」 (147 件) 1) 本山貢: いきいきわかやま体操アプリ - わかやまシニアエクササイズ- (監修), 和歌山県福祉保健部長寿社会課 2022 年 1 月 2) 本山貢: 転倒リスクが激減! 筋トレと有酸素運動の W 効果で 10 歳若返る 1 日 10 分「踏み台昇降」, マキノ出版「安心」92-97 2021 年 2 月 3) 監修: 本山貢: ゆっくりゆっくりわかやまシニアエクササイズ (動画), 和歌山県長寿社会課 2020 年 5 月 4) 監修: 本山貢: おうちで実践! わかやまシニアエクササイズ ZTV 放映, 株式会社 ZTV 新宮放送局 2020 年 5 月 5) 本山貢: 軽やかな身のこなしこそ加齢に勝った実感の正体です (ランナーズ), ランナーズ 2020:4 月号 45(576), 39-39, 2020 年 4 月 その他 142 件 「講演・学会口頭発表」 (143 件) 「受託事業・受託研究・共同研究費の受け入れ」 (49 件) (以下はすべて研究代表) 受託事業費: 37 件 (和歌山県, 和歌山市, 大阪府岬町など) 受託研究費: 6 件 (大分県由布市, 上富田町など) 共同研究費: 6 件 (築野食品工業, 上富田町, 株式会社ユー, アメリカ KT Tape, ふるさと雇用再生特別基金活用事業など)
	上記のとおり相違ありません。  (署名)